

2022年度 第2四半期 会社説明会

<主なQA>

Q. 原子力が7基体制で稼働すれば、中期経営計画で目標とする25年度の経常利益2,500億円、FCF2,000億円は、達成できるとの手ごたえを感じているか。

A. 燃料価格や為替の変動が収支に極めて大きく影響するが、市況が安定すれば、中計の達成は決して不可能ではないという思いを持っている。

Q. 今後も燃料価格や為替が大きく変動する可能性があるが、リスクへの対応は。

A. エネルギー資源に乏しい日本において、再エネを増やす選択肢はあるが、一朝一夕には増えるものではなく、短期的に事業リスクの回避に大きくは貢献できない。短期的には、エネルギーの供給・販売両面をいかにコントロールするかである。まず、原子力を安全・安定運転することが重要。その上で、火力の燃料コストをいかに抑えるか、市場調達と自社電源の活用のどちらが有利かをきめ細やかに見定めることで、リスクを低減したい。

Q. 期末配当予想は未定だが、中期経営計画の達成に向け着実に進捗しているということであり、引続き安定配当の方針は堅持されるという理解でいいか。

A. 安定配当の方針に変わりはない。とはいえ、激変する事業環境の中、今年度および来年度以降の収支を見極める必要があることから、現時点で期末配当は未定としている。

Q. 電気料金の値上げについて、現時点ではスタンスを明確にされていないが、どのように考えているのか。

A. 燃料価格や為替が想定以上に激しく変動するなか、今後の経営環境等を見極めて総合的に判断する必要があり、現時点では決まっていない。

以上